

# 子どもまち探検企画を通じた地域の水害危険の学習の在り方の検討

## Examination of the way of the learning of the local flood danger through a town exploration for children

○岡西 靖<sup>1</sup>, 稲垣 景子<sup>1</sup>, 田中 稲子<sup>1</sup>, 藤岡泰寛<sup>1</sup>, 三輪律江<sup>2</sup>, 佐土原聡<sup>1</sup>  
 Yasushi OKANISHI<sup>1</sup>, Keiko INAGAKI<sup>1</sup>, Ineko TANAKA<sup>1</sup>, Yasuhiro FUJIOKA<sup>1</sup>,  
 Norie MIWA<sup>2</sup> and Sasoru SADOHARA

<sup>1</sup> 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院

Graduate School of Urban Innovation, Yokohama National University

<sup>2</sup> 横浜市立大学大学院 (国際総合科学群)

Association of International Arts and Science, Yokohama City University

The purpose of this study is a discovery of historical materials of local disaster and an examination of the way of that learning through a town exploration for children. An investigation was carried out about local flood disaster through historical materials and hearing from local residents. There isn't enough of historical materials of flood disaster in the small and medium size river. It is going to be held a town exploration for children to be able to understand the relation between developing of wada-machi town and katabira river, characteristic of the local flood danger and commensal importance with the future river.

**Keywords :** Disaster Education , flood disaster , local disaster management

### 1. 研究の目的

横浜国立大学では、保土ヶ谷区和田町地域の町内会や商店街とともに「和田町タウンマネジメント協議会」を設置し、地域のまちづくり活動を進めている。その活動の一環として、「子どもまち探検企画」という名称で子ども視点のまちづくりイベントを8年間継続し、これまで本学会においても数回報告を行っている。今年度は、「地域の災害と歴史」というテーマで、地域内を流れる帷子川の水害等をテーマに企画した。

本研究では、子どもまち探検企画の準備から開催を通じて、地域の災害危険に関する史料等の発掘とその学習の在り方について検討することを目的とする。

取り扱う災害は中小河川の水害のため、歴史的な地震や津波などの災害と違い、目に見える物的な痕跡や碑などの史料がほとんど残っていないため、地域住民の記憶などに頼る部分も多い。しかしこのような身近な日常生活圏内での災害危険を正確に認識しておくことは、地域の防災対策を進める上で、地域特性の反映という面で極めて重要であると考えられる。

### 2. 帷子川及びその周辺地域について<sup>1), 2)</sup>

今回の子どもまち探検のテーマの中心となる帷子川は、横浜市旭区若葉台付近を水源とし、横浜港に注ぐ全長17kmの二級河川である。明治時代以降、帷子川周辺では、横浜港に近いこと、水がきれい流量が豊富であったことなどから、当時輸出が急増していた絹のスクーフの染色工場が立地していた。捺染の最終工程では、川の中で水洗いするため、余分な染料が流れだし、川の色が変わったということである。また、地域内の通る国道16号線(及び町田街道)は昔の八王子街道に相当し、そ

の八王子街道は絹糸の生産地(八王子や多摩地域)から加工(和田町)、そして輸出(横浜港)を結んでいた道路であった。

帷子川による水害は、以前は川の蛇行が激しいために大雨の時には氾濫することが多かったということで、「暴れ川」と呼ばれることもあったそうである(表1参照)。そのため昭和56年度から横浜市と神奈川県との協調事業として帷子川分水路工事が進められ、1997年3月末に完成した。この分水路により、外水氾濫による被害は軽減された。しかし、近年は内水氾濫による被害も起きている。

このように以前は帷子川は生活に密着していた河川であったが、近年では捺染も行われなくなり、護岸整備のために河川に接する機会もなくなり、生活からは切り離されたものになっている。

表1 帷子川の浸水被害の記録<sup>3)</sup>

気象状況	起生年月日	降雨量		浸水被害	
		最大時間雨量(mm)	最大日雨量(mm)	床上浸水戸数(戸)	床下浸水戸数(戸)
台風22号	S33.9.26	39	282	2,851	1,803
集中豪雨	S36.6.28・29	58	213	354	680
"	S49.7.8 43	43	107	353	1,211
台風20号の高潮	S54.10.19	17	89	431	159
台風18号と豪雨	S57.9.10~13	43	161	396	1,331
台風20号	H2.9.30 48	48	178	396	251
低気圧大雨	H5.11.13	58	165	248	133

### 3. 2011年度の子どもまち探検のテーマ設定

今年度は、当初「地域の歴史」をテーマにした探検を実施する予定であった。和田町の名称の由来(鎌倉時代の武士の名が由来との説がある)や、地域内を横断する

国道 16 号線は昔の八王子街道に相当することなど、地域内には歴史的資源がいくつかある。しかし 3 月の東日本大震災を受けて、過去に地域で起きた災害の歴史に焦点を当てて、イベントを実施することとした。

地域内の災害に関する史料や水害による痕跡などの災害情報の掘り起しを進め、子どもたちに地域の水害に対する危険性を地域の歴史を踏まえつつ学習してもらい、地域の安全安心について考えてもらうこととした。

また現在、帷子川の河川改修工事が進められており、災害という過去を学ぶだけでなく、防災も含めた将来の河川との関係の在り方などについても考えるきっかけとなることを期待した。

#### 4. 地域における水害の記録等の調査

地域における水害の記録等の調査を実施した。その入手情報について整理する。

##### ①地域住民に対する聞き取り

地域住民に対する水害の記憶について、町会関係者及び老人会等に聞き取り調査を実施した。昭和 30、40 年代の浸水状況や近年の豪雨時の状況等いくつか証言を得られたが、詳細な発生時期など多少あいまいな点もある。このような多少、正確性に欠ける情報ではあるが、同じ町内に居住する住民の具体的な被災の体験談は地域の防災意識の向上には有効であると思われる。

##### ②和田町についての文献史料・記念碑等

文献史料については、昭和 46 年に住民による和田町の地元史「和田町思考」<sup>4)</sup>がまとめられている。これによると江戸時代には数度の帷子川の拡幅等の工事が行われたが、しばらくすると再度水害に見舞われるということを繰り返していたらしいと記されている。

記念碑としては、横浜市地域史跡に指定されている和田村道橋改修碑が存在する。この碑は、江戸中期に江戸の住人が私財を提供し、当時の和田村や付近の村民の協力のもと、この付近の往来の難所を改修したことを記している。碑の設置されている付近は高さ 20m 程度の崖がせり出し、帷子川との距離も近く、当時は川と崖により通行が困難な場所であったことが現在の地形からも推測できる場所である。

##### ③行政資料

過去の水害に関する行政の資料には、表 1 に示したような統計情報のほかにも、神奈川県のアボイドマップにて地域の既往水害範囲などが公表されている。

##### ④その他

その他の関連情報として、横浜市からは、帷子川の洪水ハザードマップが公表されている（図 1 参照）。



図 1 帷子川洪水HM<sup>5)</sup>（和田町地域の一部を拡大）

（和田町地域は上図の和田一丁目と和田二丁目ほぼ該当）

また河川改修が実施される以前の河川の蛇行状況については、国土地理院のHPなどから過去の航空写真などで確認できる。

#### 5. 子どもまち探検における学習内容の検討

収集した史料や地域住民の体験談などをもとに以下のような探検メニューにて実施する。

##### ○まちの人から話を聞く（過去を知る、現状を知る）

- ・地域住民：過去の浸水被害の状況と対応
- ・町内会：災害用備蓄倉庫などの災害対策等
- ・消防団：水害時の消防団の対応等
- ・県横浜川崎治水事務所：現在工事が進められている帷子川の河川工事の状況等

##### ○まちなかにある史跡を訪ねる（過去を知る）

- ・和田村道橋改修碑、和田地蔵尊、八王子街道等

##### ○水害時の状況を思い描いてみる（将来を考える）

- ・まち探検の途中の数か所で洪水ハザードマップでの想定浸水深がどの程度なのか、自分のからだをスケールしてに計って実感し、どの程度の浸水になるか、その場合周囲はどうなるかなどを考えてみる。

#### 6. 地域の水害危険の学習の在り方の考察

最初に述べたとおり、中小河川の水害では史料や碑などの資料に乏しく、今回収集した個々の資料は断片的な情報にならざるを得なかった。しかし、それらを集めてある視点（今回は地域の歴史という時間的な流れ）で見ることにより、全体として、まちの発展と河川の関連、地域の水害危険の特徴及び将来の河川との共生の重要性などが理解できる探検企画になると考えている。

またこのまち探検企画では、その成果を地域のまちづくりと関連させて活動していることから、今回の成果についても、まちなかでの想定浸水深の表示などにつなげていきたいと考えている。

謝辞：本研究を進めるにあたり地域住民の方々及び和田西部町内会、神奈川県・横浜市の職員の方々にお世話になったことに深く謝意を表します。

#### 参考文献：

- 1) 横浜市。“わがまち保土ヶ谷 歴史散歩「帷子(かたびら)川””。横浜市。  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/hodogaya/midokoro/rekisi/katabira.html>, (参照 2011-10-10)。
- 2) 横浜市。“帷子川分水路”。横浜市。  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kids/manabu/water/river/kata/kata5.html>, (参照 2011-10-10)。
- 3) 横浜市。“【ほどがやあれこれ】帷子川の治水”。横浜市。  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/hodogaya/midokoro/motto/pdf/62-69.pdf>, (参照 2011-10-10)。
- 4) 青木正晴. 和田町思考. 青木正晴. 1971. 71p.
- 5) 横浜市。“保土ヶ谷区洪水ハザードマップ”。横浜市。  
[http://www.city.yokohama.jp/me/shobo/kikikanri/hmap/pdf/hodogaya\\_omote.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/shobo/kikikanri/hmap/pdf/hodogaya_omote.pdf), (参照 2011-10-10)。